

よみがえれ！魚つき保安林 ～魚つき保安林再生活動～

鳥取県漁業士会
中部会長 中村 一昭
青年漁業士 遠藤 通

1. 地域の概要

活動選定場所は、鳥取県の中に位置した気高郡青谷町の長尾鼻と呼ばれる岬で、西因幡県立公園にも指定されている美しい地域である。

2. 漁業の概要

刺網、小型底びき網を中心とした5t未満の漁船漁業が盛んであるが、起伏に富んだ天然岩礁を利用して約400年の伝統を持つ「海女漁」が、営まれており、イガイや鳥取県特産のイワガキ等が漁獲されている。

3. 研究グループの組織と運営

鳥取県漁業士会は、現在会員数25名で構成され、東・中・西部の3部会を設置し、活動している。主な活動は、水産高校での講演活動、魚食普及活動、海浜清掃活動、育樹ボランティア活動、県の後継者対策事業の協力等である。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

鳥取県漁業士会では、平成9年頃から森が海を育むとして「森っ子倶楽部」をはじめとした育樹ボランティア活動に参加し、下草刈り、枝打ち、間伐、植林といった実践活動を実施した。活動しているうちに、自分たちに関わりの深い魚つき保安林について勉強し、見直すようになった。

県森林保全課によると、魚つき保安林は国が森林法に基づき指定している保安林の一種で、その機能は、

- ① 陰影による生息環境の創出
- ② 栄養物質の供給（森林の腐植土壌から生成）
- ③ 土砂の流出防止
- ④ 地表流量の調節

となっている。つまり、われわれ漁業者にとって非常に関わりの深い森林ということになる。

また、県内の魚つき保安林の状況は、面積にして125㌔あり、樹種は、かつて、クロマツを主体としていたが、昭和50年頃から松食い虫の被害等により、現在では魚つき保安林に指定されながら木が生えていない場所が17㌔に達している。

長尾鼻一帯も、地元の人に聞くとかつて立派な松林あったと聞いており、その多くが魚

つき保安林に指定されていた。しかし、昨今の松枯れによりササ野原になっている。そこで、魚つき保安林の本来の機能を再生させ、未来へ豊かな海を引き継ぎたいと魚つき保安林再生活動を初めて計画した。

5. 研究・実践活動状況及び成果（効果）

魚つき保安林の再生活動をするために選定した場所は、海に面して、谷になっており、ちょうど雨水が海へ注ぎ込む絶好の場所であった。元々生えていた木は数本あっただけで、その木を残してあらかじめ、木を植える前に地ごしらえを実施した。面積は約 1,400 m²であった。

植樹活動への参加募集は、案内文を作成し各漁協や関係者に送付して呼びかけた。当日は、あいにくの雨であったが、地元漁業者、漁協婦人部、漁業士会員、漁連、県、青谷町等 86 名もの方に参加いただいた。

植樹した苗木は、トベラ、シラカシ、スダジイの 1,400 本であった。面積は 1,400 m²あるので、1 m²あたり 1 本植えることになり、かなりの密植であった。これは、専門家に相談したところ、自生していたササに早く勝つためには、密に植えて、植えた木の陰へ早く追いやるのがよいだらうというアドバイスをうけたので密植にした。

なお、植えた樹種に松は入っていないが、せっかく植えた松が松食い虫にやられるようではいけないので、松ははずした上で、アドバイスをもらいながら先の樹種に決定した。トベラが一番強いが 2～3 m 位までにしか大きくなるので、比較的強く大きくなるシラカシ、スダジイも選定した。

参加者は、安全に配慮してヘルメットをかぶり、トグワを使って穴を掘り、苗木を植える作業をした。また、シラカシとスダジイは、風等でやられないよう支えるための支柱を打ち込み麻縄で固定した。なお、支柱には、割高であるが、最終的には腐ることを考慮して木を利用した。トベラについては、元々木が低く風に強いので支柱は使用しなかった。

今回は、初めて鳥取県漁業士会主催という形で実施した。今までは、募集されている育樹活動ボランティアに参加という形での活動だったので、漁業士会主催で漁業関係者による活動ができたことに意義があったと思われる。

6. 波及効果

我々の呼びかけに、これだけ多くの人に参加していただけたのは、この活動に対する期待と関心の高さの現れでないかと思われる。

この活動は、まだ始まったばかりであるが、テレビや新聞等で報道され、魚つき保安林の意義を県内漁業関係者のみならず、広く一般県民に知っていただくことができたと思われる。

7. 今後の課題や計画と問題点

今後、他地区への展開も考えられるが、木を育てるには植えるばかりでなく、手入れの方が大変だということを育樹ボランティア活動で学んだ。まずは、皆さんに植えていただいた木が立派に育つよう下草刈り等を実施して着実に育てる必要がある。下草刈りには最低でも 5～6 年は必要なようで、息の長い活動を実施したい。

鳥取県の魚つき保安林の樹種別面積

(単位：h a)

スギ	マツ	広葉樹	タケ類	未立木地	合計
1	35	71	1	17	125

県森林保全課資料抜粋

青谷・長尾鼻岬

漁場の環境守る海辺の森林

「魚つき保安林」再生を

県内漁業関係者が植樹

松枯れなどで荒廃が進む海辺の「魚つき保安林」の再生を目指して、鳥取県内の漁業関係者らがこのほど、青谷町の長尾鼻岬で植樹活動を行った。漁場の環境を守る森を取り戻そうという、県内で初めての取り組み。朝から雨が降り続く悪天候の中、参加者らは「漁師の手で森林をよみがえらせたい」との願いを込めながら一本ずつ苗木を植えていった。

植樹活動は「よみがえれ！魚つき保安林」をテーマに鳥取県漁業士会が呼びかけたもので、約九十人が参加した。

海辺の森林は土砂の流出や飛砂防止、日陰の提供など、漁場の環境を守る



長尾鼻岬に苗木を植える漁業関係者ら

る大きな働きを持つ。国が森林法に基づいて魚つき保安林に指定しているが、松枯れやササの繁殖などで昭和三十年代ごろから荒廃が進行。長尾鼻岬も同様で、このほど地権者の許可が得られたことから県内初の再生計画が実現した。

作業には地元漁師をはじめ、県や青谷町、県緑化推進委員会、県漁連、同婦人部連絡協会のメンバーらも協力。海に向かって切り立つ岬の斜面にスコップで穴を掘り、スタッドイヤーやシラカシ、トベラの苗木千四百本を植えた。

参加者らは雨で全身ずぶぬれになりながら、苗が強風で倒れないように添え木にロープでくくりつけるなど、一本ずつ丁寧に植えていった。

松田会長は「多くの方が協力してくれ感謝している。何年かかるかわからないが、立派な魚つき保安林が再生するよう取り組んでいきたい」と話していた。

2000. 10. 26 日本海新聞

漁師による植樹活動参加者募集

テーマ：よみがえれ！魚つき保安林

魚つき保安林は、水面に陰をつくったり、流れ込む水の汚濁を防いだり、養分の豊かな水を供給し、魚の繁殖を助ける機能がある森林として国が指定しています。魚つき保安林の本来の機能を再生させ、未来に豊かな海を引き継ぎましょう。

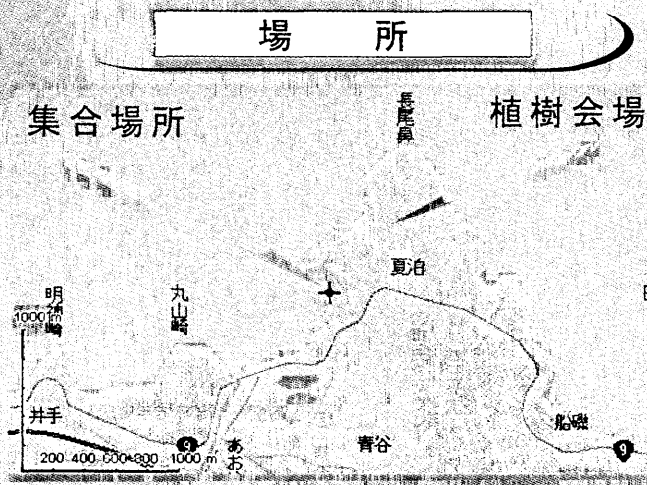
10月20日(金) 午前10時～13時

夏泊漁港 (鳥取中央漁協夏泊支所)

準備いただくもの

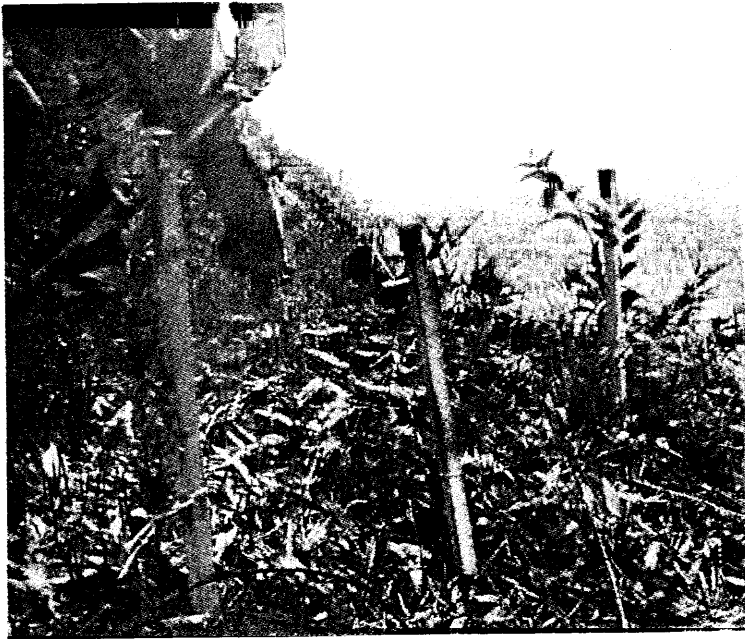
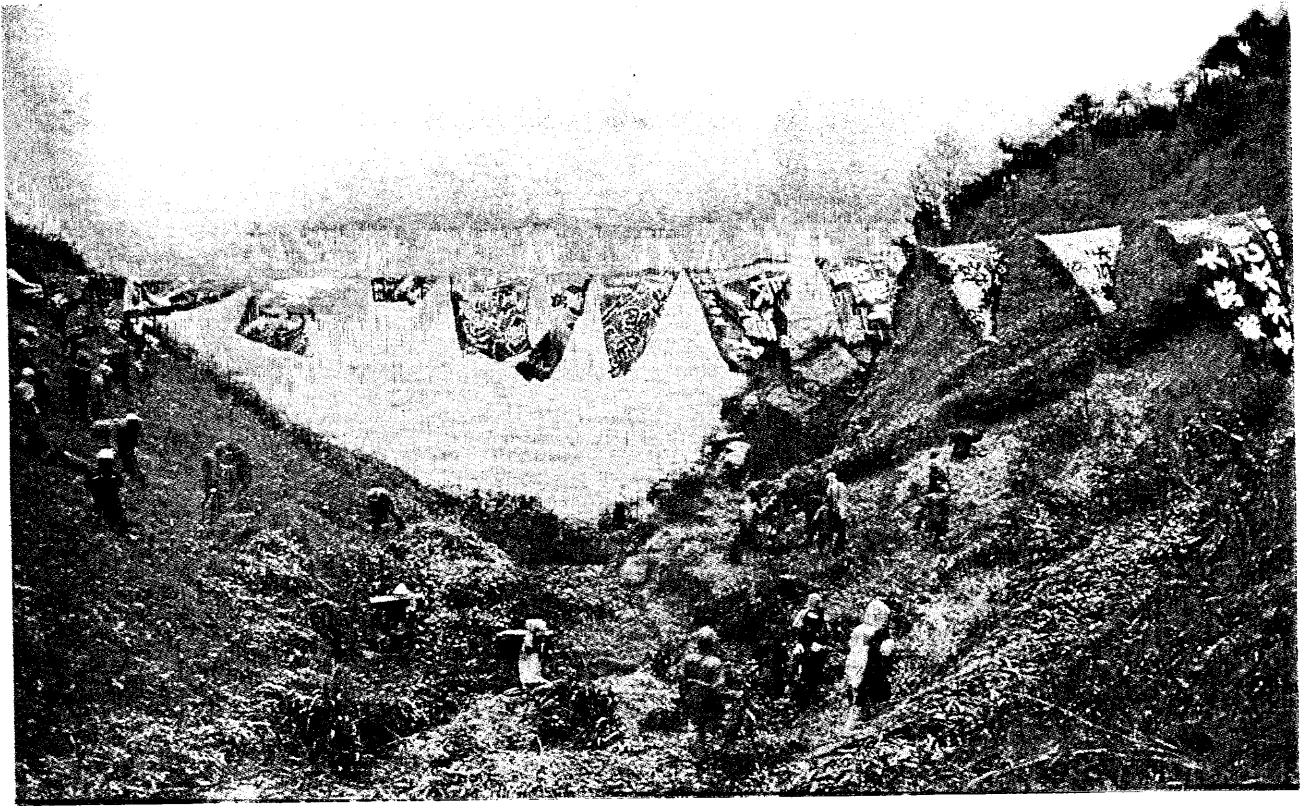
作業できる服装、着替え
タオル、くわ、スコップ
金づち
※弁当は事務局で手配します。

場所



- 主催 鳥取県漁業士会
- 協力 鳥取県・青谷町・社団法人 鳥取県緑化推進委員会
鳥取県漁業協同組合連合会・鳥取県漁協婦人部連絡協議会

参加申込み・お問い合わせ：漁業士会事務局 TEL.0857(26)7316



トベラ